

【施設の概要】

敷地面積：1,698 平方メートル (515 坪)
 構造：鉄筋 2階建て 寄せ棟造り
 延べ床面積：591 平方メートル
 庭園面積：300 平方メートル
 開館年月日：昭和 63 年 10 月 8 日

庭園喫茶

庭園を観ながらティータイムを！

【交通】



バス 阪急バス ・ 阪神電車芦屋駅南側②番のりば
 ・ 阪急電鉄芦屋川駅南側⑤番のりば
 ・ JR 芦屋駅北側⑤番のりばより乗車
 「緑町」下車東へ 1 分

徒歩 阪神電車芦屋駅から南東へ約 15 分

駐車場 美術博物館 20 台、図書館 47 台

駐車場使用料 (2015 年 3 月現在)

・ 8:00 ~ 20:00 30 分 100 円
 ・ 20:00 ~ 8:00 60 分 100 円

(入館者は割引あり)

【利用案内】

開館時間

午前 10 時 ~ 午後 5 時
 (入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日

- ・ 月曜日 (祝日開館、その場合は翌日休館)
- ・ 年末年始 (12/28 ~ 1/4)
- ・ 展示入れ替え期間

観覧料

一般	300 円	240 円 (団体)
大・高生	200 円	160 円 (団体)
中・小生	無 料	

- ◎ 団体 20 人以上
- ◎ 高齢者 (65 歳以上) および身体障害者・療育手帳をお持ちの方、ならびにその介護者の方は半額。
- ◎ 特別展は展覧会によって料金が異なります。

施設使用料

	午 前	午 後
講義室	1,400 円	1,800 円

ロビーギャラリー

ロビーをギャラリーに活用し、工芸、手芸、洋画、日本画、イラストなど多彩な展示を開催しています。

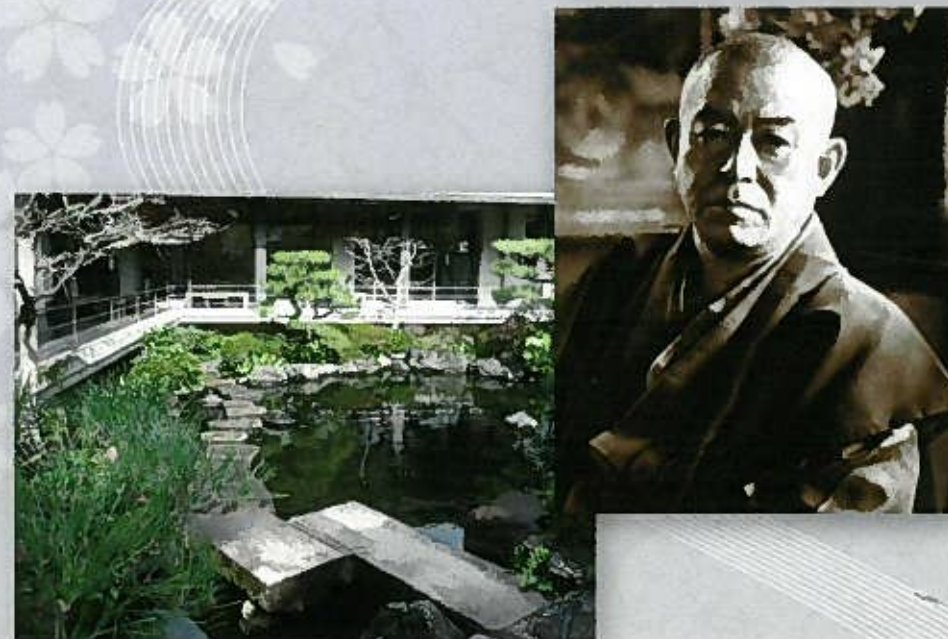
芦屋市谷崎潤一郎記念館

Tanizaki Junichiro Memorial Museum of Literature Ashiya

〒659-0052 芦屋市伊勢町 12 番 15 号

TEL.0797-23-5852 FAX.0797-38-3244

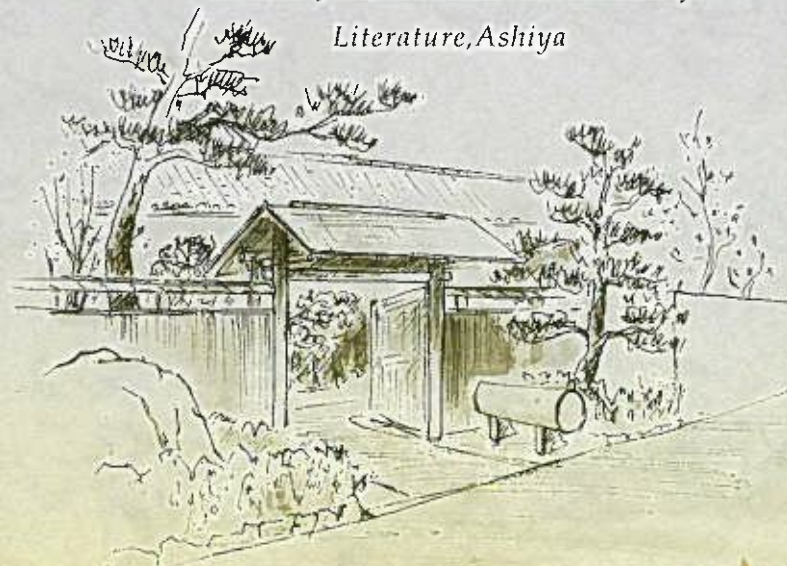
<http://www.tanizakikan.com/>



芦屋市谷崎潤一郎記念館

Tanizaki Junichiro Memorial Museum of

Literature, Ashiya



<http://www.tanizakikan.com/>

The Literature of Tanizaki Junichiro

Junichiro Tanizaki born in 1886.Tokyo is highly appreciated as a world famous literary man

His early novels were influenced by Poe, Baudelaire,and Oscar Wilde.

He pursued a unjversal literary theme, "What is man?"

He established a new style of writing in Japanese modern literature.

His goal was not to describe the human psyche, which was the usual Japanese literary form, but to describe man's physical and emotional nature.

He searched for the essence of human existence,and did not join the naturalist's movement which was very popular at that time in Japan.

He published,"The Tattooer"(1910), "The Boy"(1911),and "The Devil"(1912), works referred to as "Estheticism" or "Satanism".

After the earthquake of 1923,he moved from Tokyo to Kansai area.

Here in Ashiya,he lived with Mrs.Nezu, the wife of a wealthy merchant in Osaka.

Mrs.Nezu was the embodiment of Kyoto-Osaka traditional culture,and was an inspiration to Tanizaki.

They eventually married.

Between 1928 and 1935,he published "Quicksand", "A Blind Man's Tale", "The Reed Cutter", and "A Portrait of Shunkin".

These are Tanizaki's most important works, and they all relate to Kansai and Japan's past and traditions.

He wrote through the war years, and published "The Makioka Sisters"(1943-8), one of the greatest Japanese novels of the twentieth century.

This novel reflected the sensitivity and compassion of a time and place that no longer existed in Japan.

After the war,he published "The Key" (1956) and "Diary of a Mad Old Man" (1962), which Jean-Paul Sartre held in high regards.

In 1964 he was elected as an Honorary Member of the American Academy and the National Institute of Arts and Letters.

He died in 1965



庭園は、谷崎の関西での最後の住居・京都湯渡亭の庭を模したものの



谷崎潤一郎愛用の硯など



谷崎自筆の「細雪」原稿（毛筆）

略年譜

年 譜		おもな作品
1886 (明治 19)		東京市日本橋蛸薬町（現・東京都中央区）に生まれる。
1897 (M30)	11 歳	阪本小学校高等科進級。級友との同輩雑誌に寄稿を始める。
1908 (M41)	22 歳	府立第一中学校、第一高等学校から東京帝国大学国文科へ進学。放浪生活を始める。
1910 (M43)	24 歳	『刺青』（「新思潮」）発表。永井荷風に激賞され文壇に華やかに登場する。
1915 (大正 4)	29 歳	石川千代と結婚。
1920 (T 9)	34 歳	大正活映株式会社の脚本部顧問に。
1923 (T 12)	37 歳	箱根で関東大震災に遭い、関西に移住。
1927 (昭和 2)	41 歳	芥川龍之介と「小説の筋」論争。
1930 (S 5)	44 歳	千代と離婚、千代は佐藤春夫と結婚。『妻譲渡事件』
1931 (S 6)	45 歳	古川丁未子と結婚、2 年後別居。高野山で密教研究、執筆。
1934 (S 9)	48 歳	精道村打出下宮塚（現・芦屋市宮川町）に新居を持つ。
1935 (S 10)	49 歳	丁未子と正式離婚。森田松子と芦屋で祝言を挙げる。
1936 (S 11)	50 歳	兵庫県住吉村反高林（現・神戸市東灘区「倚松庵」）＝小説「細雪」モデルの家）に転居。
1943 (S 18)	57 歳	『細雪』を発表するも軍部の圧力により連載中止。
1944 (S 19)	58 歳	熱海市西山の別荘へ家族とともに疎開。
1945 (S 20)	59 歳	岡山県津山市、さらに同勝山町に再疎開。
1946 (S 21)	60 歳	疎開先から戻り京都市内に転居。
1947 (S 22)	61 歳	『細雪』で毎日出版文化賞受賞。
1948 (S 23)	62 歳	前後 8 年にわたる『細雪』脱稿。
1949 (S 24)	63 歳	文化勲章受章。『細雪』で朝日文化賞受賞。
1954 (S 29)	68 歳	熱海市に転居。2 年後、京都の家を売却、関西での生活を終える。
1963 (S 38)	77 歳	『癡癡老人日記』で毎日芸術大賞受賞。
1964 (S 39)	78 歳	全米芸術院・米国文学芸術アカデミー名誉会員に推薦される。
1965 (S 40)	79 歳	腎不全から心不全を併発し湯河原の自宅で死去。

佐藤春夫記念館と姉妹館提携

谷崎潤一郎と佐藤春夫が生前親しい交友関係にあったことから、和歌山県新宮市にある佐藤春夫記念館と平成 2 年 12 月姉妹館提携をむすびました。

収 蔵 資 料

開館にあたって谷崎松子夫人をはじめ遺族から贈られた約 500 点を中心に、その後谷崎潤一郎の秘書であった小瀧櫻氏をはじめ多くの方々からの寄贈を受け、また、購入等により収集しています。資料には、書籍、原稿、書簡、美術品、写真、日用品、遺愛品等があります。